

# 令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

## <県央会場>

### 科目 ①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容

- ◆ 少子化が進む中、放課後児童クラブはなくてはならないものと感じました。そして、ここで働く支援員の質の向上に向けた努力も必要なことと実感しました。支援の目的を意識しながら、児童がストレスを軽減して集団の中で安心して生活できるように支えるための資質を身に付けていきたいです。そのために、今回の研修を通して、実際の場面で援助に活かせるよう学んでいきたいと思います。
- ◆ 放課後児童クラブの目的の中で、児童が安心して過ごせる生活の場として、児童の発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう支援を行うということを学ぶことができた。放課後児童クラブの実態に目を向け、安心して過ごせるような雰囲気作り、様々な遊びの経験ができるような環境を整え、一人ひとりが主体的に過ごせる場にしたいと思う。支援員間の共通認識のもと放課後児童クラブの質の向上、機能の充実に努めていきたい。
- ◆ 放課後児童クラブは単に「子どもを預かる場」ではなく、条例に基づいて運営される、近年ニーズの高い事業であると理解できた。子育て支援の一環として保護者が負担なく子育て、就労ができること、そして何より子どもの健全な育成が行われることが重要である。そのために我々支援員が共通認識をもち日々支援にあたる必要があると感じた。放課後児童クラブは“集団”であるが、その中で一人ひとりの“個”を尊重して環境の整備や発達段階に応じた遊び、生活の提供に尽力していきたい。
- ◆ 放課後児童クラブの設置根拠として「遊びと生活の場」を与えて健全な育成を図っていくものであると学んだ。小学生であれば宿題等の「勉強」が中心になっているイメージがあったが違っていた。また、学童クラブを実施していくにあたり、設置基準として有資格者の人数や専用区画が確保できるかなどの課題が多いことに気が付いた。学童クラブのニーズの高まりに応えるためにも、支援の目的を再確認しながら環境を整えていきたい。
- ◆ 少子化が進むなか、放課後児童クラブの登録児童数は増え続けているということを知りました。その背景には保護者の就労形態の多様化、地域の養育基盤の弱体化などがあり、放課後児童クラブの需要は今後も増え続けるとのこと。そのため放課後児童支援員という全国共通の資格をもつ人材の育成が必要であり、放課後児童支援員に求められる役割は大きいと感じました。